

# 決算補足説明資料

2014年度(2015年3月期)第2四半期 決算概要

2014年10月29日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp>  
( 営業情報 <http://www.hankyu-hanshin.co.jp> )

この資料には、現時点の将来に関する前提・見通しに基づく予測が含まれております。  
実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

# 目 次

I . 2014年度(2015年3月期) 第2四半期決算概要	.....	2
II . 2014年度(2015年3月期) 通期業績予想	.....	10

# ***I . 2014年度(2015年3月期) 第2四半期決算概要***

# 2014年度第2四半期決算 連結損益比較表(サマリー)

(単位：百万円)

科目	2014年度 2Q累計	2013年度 2Q累計	比較増減	増減率	備考
営業収益	334,633	349,566	△14,933	△4.3%	次ページ参照
営業利益	52,835	61,608	△8,772	△14.2%	
うち、減価償却費	26,021	26,676	△654	—	
営業外収益	4,698	4,257	+441	—	
うち、受取利息 及び配当金(A)	907	814	+93	—	
営業外費用	8,155	9,176	△1,020	—	
うち、支払利息(B)	7,297	8,500	△1,202	—	
うち、金融収支(A-B)	△6,389	△7,685	+1,295	—	
経常利益	49,378	56,689	△7,311	△12.9%	
特別利益	1,055	8,927	△7,871	—	固定資産売却益 △8,093
特別損失	2,974	1,345	+1,629	—	
四半期純利益	28,963	39,646	△10,682	△26.9%	

# セグメント別営業成績(サマリー)

(単位：百万円)

	都市交通	不動産	エンタテインメント・コミュニケーション	旅行	国際輸送	ホテル	その他	調整額	連結
営業収益									
2014年度2Q累計	115,866	93,215	61,164	18,419	18,698	29,936	14,605	△17,272	334,633
2013年度2Q累計	116,083	113,146	58,242	17,805	18,291	31,277	12,128	△17,409	349,566
比較増減	△217	△19,931	+2,922	+613	+406	△1,341	+2,476	+136	△14,933
営業利益									
2014年度2Q累計	20,459	17,298	12,934	2,605	1,085	△201	△30	△1,317	52,835
2013年度2Q累計	21,331	26,593	12,682	1,520	844	233	△6	△1,590	61,608
比較増減	△871	△9,294	+251	+1,085	+241	△434	△23	+273	△8,772

不動産事業において、マンション分譲戸数が、通期では前期並みを見込むものの、当第2四半期連結累計期間においては、前年同期に竣工・引渡しが集中した影響により減少したこと等から、連結全体で減収・減益となった。

## 都市交通セグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	115,866	116,083	△217	△0.2%
営業利益	20,459	21,331	△871	△4.1%

前年度末に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が発生した影響により鉄道事業全体で運輸収入が減少したことや、動力費が増加したこと等により、減収・減益

## 不動産セグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	93,215	113,146	△19,931	△17.6%
営業利益	17,298	26,593	△9,294	△35.0%

マンション分譲戸数が、通期では前期並みを見込むものの、当第2四半期連結累計期間においては、前年同期に竣工・引渡しが集中した影響により減少(△520戸：前年同期924戸→当期405戸※)したこと等から、減収・減益

※当社グループの持分戸数    なお、当期のマンション販売は、ほぼ当初想定どおりに進捗している

# 《都市交通》 鉄道運輸成績

## 《阪急電鉄》

	収入				人員			
	2014年度2Q累計 百万円	2013年度2Q累計 百万円	比較増減 百万円	増減率 %	2014年度2Q累計 千人	2013年度2Q累計 千人	比較増減 千人	増減率 %
定期外	30,111	30,486	△375	△1.2	152,711	155,071	△2,360	△1.5
定期	16,015	15,768	+247	+1.6	163,670	160,699	+2,970	+1.8
うち通勤	13,684	13,412	+272	+2.0	112,374	109,253	+3,121	+2.9
うち通学	2,331	2,355	△24	△1.1	51,296	51,446	△150	△0.3
合計	46,127	46,254	△127	△0.3	316,381	315,771	+610	+0.2

消費税率引き上げ影響 約△5億円

## 《阪神電気鉄道》

	収入				人員			
	2014年度2Q累計 百万円	2013年度2Q累計 百万円	比較増減 百万円	増減率 %	2014年度2Q累計 千人	2013年度2Q累計 千人	比較増減 千人	増減率 %
定期外	10,359	10,409	△49	△0.5	56,819	57,359	△540	△0.9
定期	5,643	5,529	+114	+2.1	58,950	57,325	+1,625	+2.8
うち通勤	5,042	4,930	+111	+2.3	46,395	44,994	+1,400	+3.1
うち通学	601	598	+2	+0.5	12,555	12,330	+224	+1.8
合計	16,003	15,938	+64	+0.4	115,769	114,684	+1,084	+0.9

消費税率引き上げ影響 約△1億円

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示している。  
 2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいる。  
 3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計である。

## エンタテインメント・コミュニケーションセグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	61,164	58,242	+2,922	+5.0%
営業利益	12,934	12,682	+251	+2.0%

阪神タイガースの公式戦主催試合数が増加したことに加え、宙組公演「ベルサイユのばら-オスカル編-」、星組公演「The Lost Glory-美しき幻影-」・「パッションナイト宝塚！」が好評を博したこと等により、増収・増益

## 旅行セグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	18,419	17,805	+613	+3.4%
営業利益	2,605	1,520	+1,085	+71.4%

海外旅行において、カナダ方面や台湾等のアジア方面の集客が好調に推移していること等により増収となったほか、コストの抑制に努めたこと等により増益



## 国際輸送セグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	18,698	18,291	+406	+2.2%
営業利益	1,085	844	+241	+28.6%

アセアン・中国を中心とした貨物需要の緩やかな回復を受け、増収・増益

## ホテルセグメント

(単位：百万円)

	2014年度2Q累計	2013年度2Q累計	比較増減	増減率
営業収益	29,936	31,277	△1,341	△4.3%
営業利益	△201	233	△434	—

外国人宿泊客が増加したこと等により、宿泊部門が堅調に推移したものの、レストラン部門や婚礼宴会が低調に推移したこと等により、減収・減益

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目		2014年度2Q末	2013年度末	比較増減	備考
資産の部	流動資産	240,839	270,919	△30,079	受取手形及び売掛金 △14,388 など
	固定資産	2,003,045	2,016,009	△12,963	有形・無形固定資産 △17,642 など
	資産合計	2,243,884	2,286,928	△43,043	
負債の部	流動負債	483,814	564,220	△80,406	
	固定負債	1,117,701	1,105,109	+12,591	
	負債合計	1,601,515	1,669,330	△67,814	
純資産の部	株主資本	613,260	588,969	+24,291	四半期純利益28,963－支払配当4,431 など
	その他の包括利益累計額	13,110	13,081	+29	
	新株予約権	318	208	+109	
	少数株主持分	15,678	15,338	+340	
	純資産合計	642,369	617,598	+24,770	

	2014年度2Q末	2013年度末	比較増減
借入金	863,817	898,605	△34,788
社債	122,000	122,000	—
リース債務	10,900	11,702	△801
連結有利子負債	996,718	1,032,307	△35,589

	年間配当金		
	中間配当	期末配当	合計
2014年度	3.0 円	3.0 円 (予想)	6.0 円 (予想)
2013年度	2.5 円	3.5 円	6.0 円

営業キャッシュ・フローを有利子負債の返済に充当したことによる減少 など

## ***Ⅱ. 2014年度(2015年3月期) 通期業績予想***

# 2014年度 連結業績予想修正(総括)

(単位：億円)

科目	2014年度 今回発表予想	2014年度 5月発表予想	比較増減	増減率	備考
営業収益	6,800	6,700	+100	+1.5%	不動産分譲事業が好調に推移していることや、鉄道事業で阪急線・阪神線の運輸収入が当初の想定を上回る見込みであること等を踏まえ、前回(2014年5月)発表予想から上方修正
営業利益	900	860	+40	+4.7%	
うち、減価償却費	539	551	△12	—	
経常利益	800	770	+30	+3.9%	
うち、受取利息及び配当金(A)	15	12	+3	—	
うち、支払利息(B)	143	149	△6	—	
うち、金融収支(A-B)	△128	△137	+9	—	
当期純利益	460	450	+10	+2.2%	

# 2014年度業績予想修正 セグメント別の変動要因

(単位：億円)

上段：営業収益 下段：営業利益	2013年度 通期実績 ①	2014年度 当初予想 (5月発表) ②	2014年度 今回発表予想 ③	=③-①	=③-②	営業利益予想の主な変動要因
合計	6,792	6,700	6,800	+8	+100	P.11参照
	918	860	900	△18	+40	
[主な内訳]						
都市交通	2,346	2,302	2,313	△33	+11	鉄道運輸収入の増加等
	385	365	373	△12	+8	
不動産	2,086	2,063	2,078	△8	+15	不動産分譲事業の好調等
	380	358	371	△9	+13	
エンタテインメント・ コミュニケーション	1,104	1,097	1,086	△18	△11	宝塚歌劇の観劇人員増加等
	142	114	118	△24	+4	
旅行	330	333	340	+10	+7	
	12	18	19	+7	+1	
国際輸送	377	386	382	+5	△4	
	21	23	23	+2	—	
ホテル	637	643	627	△10	△16	
	8	10	10	+2	—	

## 《都市交通》 鉄道運輸成績(通期予想)

### 《阪急電鉄》

	収入				人員			
	2014年度予想 百万円	2013年度実績 百万円	比較増減 百万円	増減率 %	2014年度予想 千人	2013年度実績 千人	比較増減 千人	増減率 %
定期外	60,958	61,630	△671	△1.1	309,324	313,241	△3,917	△1.3
定期	31,438	31,299	+139	+0.4	317,395	315,884	+1,510	+0.5
うち通勤	27,006	26,843	+163	+0.6	220,248	218,463	+1,784	+0.8
うち通学	4,432	4,455	△23	△0.5	97,147	97,421	△274	△0.3
合計	92,397	92,929	△532	△0.6	626,719	629,125	△2,406	△0.4

消費税率引き上げ影響 約△14億円

### 《阪神電気鉄道》

	収入				人員			
	2014年度予想 百万円	2013年度実績 百万円	比較増減 百万円	増減率 %	2014年度予想 千人	2013年度実績 千人	比較増減 千人	増減率 %
定期外	20,104	20,260	△155	△0.8	111,195	112,360	△1,165	△1.0
定期	11,152	11,008	+143	+1.3	115,529	113,644	+1,884	+1.7
うち通勤	10,010	9,850	+160	+1.6	91,771	89,736	+2,034	+2.3
うち通学	1,142	1,158	△16	△1.4	23,758	23,907	△149	△0.6
合計	31,257	31,269	△12	△0.0	226,724	226,004	+719	+0.3

消費税率引き上げ影響 約△4億円

- (注) 1. 収入は百万円未満を、人員は千人未満をそれぞれ切り捨てて表示している。  
 2. 阪急電鉄の定期外収入・人員には、P i T a P a 区間指定割引運賃適用の収入・人員を含んでいる。  
 3. 阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計である。

# 2014年度業績予想修正 経営管理指標と有利子負債

	(A)2013年度 実績	(B)2014年度 5月発表予想	(C)2014年度 今回発表予想
<b>連結有利子負債/EBITDA倍率</b>	<b>6.9倍</b>	<b>6.7倍</b>	<b>6.6倍</b>
連結有利子負債	10,323億円	9,700億円	9,700億円
連結EBITDA	1,492億円	1,440億円	1,470億円
<b>D/Eレシオ</b>	<b>1.7倍</b>	<b>1.5倍</b>	<b>1.5倍</b>
<b>連結ROE</b>	<b>8.0%</b>	<b>7.2%</b>	<b>7.4%</b>

[注]

- ①EBITDAは「営業利益+減価償却費+のれんの償却費」で算出。
- ②連結ROEの算出にあたっては、分母に自己資本の期首期末平均を使用している。

## 2014年度業績予想修正 (ご参考)セグメント別の設備投資・減価償却費

	2013年度 通期実績	2014年度 当初予想 (5月発表)	2014年度 今回発表予想	=③-①	=③-②
	①	②	③		
	億円	億円	億円	億円	億円
設備投資	807	670	700	△107	+30
[主な内訳]					
都市交通	275	337	336	+61	△1
不動産	435	213	260	△175	+47
エンタテインメント・コミュニケーション	56	97	82	+26	△15
旅行	12	9	8	△4	△1
国際輸送	6	5	5	△1	—
ホテル	18	25	26	+8	+1
減価償却費	545	551	539	△6	△12
[主な内訳]					
都市交通	260	266	260	+0	△6
不動産	180	176	174	△6	△2
エンタテインメント・コミュニケーション	71	74	72	+1	△2
旅行	8	8	8	△0	—
国際輸送	7	7	7	△0	—
ホテル	21	21	20	△1	△1



## 2014年度業績予想修正 (ご参考)セグメント別のEBITDA

	2013年度 通期実績  ①	2014年度 当初予想 (5月発表)  ②	2014年度 今回発表予想  ③	=③-①	=③-②
	億円	億円	億円	億円	億円
EBITDA	1,492	1,440	1,470	△22	+30
[主な内訳]					
都市交通	644	631	633	△11	+2
不動産	560	534	545	△15	+11
エンタテインメント・コミュニケーション	212	190	192	△20	+2
旅行	20	26	27	+7	+1
国際輸送	28	30	30	+2	-
ホテル	29	31	30	+1	△1